

## 情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年2月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の出荷量は前年同月と比べて大幅な減少となった。前年同月の落ち込み幅よりもやや多いのが気かりである。
	パン・菓子製造業	2月は大きなイベントがあり、観光客による売上増を期待したが、思ったほどの売上はなかった。
繊維・同製品	その他の織物業	先月から定番品(受注残含む)及びスポット的な製品の動きが好調。一部企業においては、国内だけではなく輸出製品も堅調に推移している。全体的な好転の兆しは無いが、特殊及び付加価値製品はコンスタントに出荷されている。翌月以降の動向が不透明なため、かなりの不安感が先行するが前向きに行動している企業が多く見られる。月末に、天然ゴムの大幅値上げの依頼があり、4月以降の製造に影響が出てくるものと思われる。原油高騰による原糸・染色の値上げに加え、今回の引き上げは個々の企業にとって製品への価格転嫁を余儀無くされ、今後の商社の対応が懸念される。
	織物業	絹分野では海外激安製品の圧迫が更に強まり、多品種・極少ロットの発注に終始し、繭の出来不良により生糸が高騰し、原料高、製品安の状態に陥り、過去の幾多の困難より増して厳しい状況で推移している。合繊分野では創造性・企画力を備え、少ロット・短納期に対応し、ブランド品等の厳しい品質要求に応えられるカーテンやマイクロ繊維など差別化織物分野で受注を確保しています。トレンドをうまく捉え比較的好調な企業も見られますが、総じて高品質対応と低コストの強い要請、開発費の増大等から採算が厳しいまま推移している。あと一部地域ではあるが、景気の回復基調の波及効果により売上が好転しているところが見られるようになった事が全体として少し明るい材料である。
	ねん糸製造業	ナイロンを中心にしたスポーツ衣料及び車輻関係並びにエアバッグ等には依然と根強い需要があるものの、長繊維衣料分野においては依然として縮小均衡の過程を辿り、特に婦人衣料は大きく減退し、先行き長期低迷を余儀無くされる極めて厳しい状況下にあります。
	その他の織物業	2月度は、昨年に比べ21%売上が減少した。依然として収益の悪化が収まらず、その影響か組合員企業1社が廃業した。組合員だけでなく、組合経営にとっても依然として厳しい状況が続いている。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	大雪の影響も一段落し、林道・作業路の通行も可能となり、出材量も例年通りとなったが、需要量はまだまだ少ない。
	製材業、木製品製造業	2月度は例年に比べ受注増であった。雪が例年より早く降った為、受注が先送りされた事により増えたものと思われる。
窯業・土石製品	砕石製造業	2月分の組合取扱い出荷量は、対前年同月比アスコン向けが101%増加したものの、大口の生コン向け出荷が10.6%減少しており、今年度のトータルの全体量では5.3%減少した。3月に期待したいが、この減少をカバーできる見込みも無く、厳しい年度となる気配である。
	陶磁器・同関連製品製造業	業況については特に変化は見られない。地域団体商標については、検討委員会を設けて意見交換を重ねている最中である。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、2月末現在、前年同月比98.1%とマイナスの出荷量となった。2月の地区状況は、南加賀、鶴来・白峰、羽咋・鹿島、七尾地区がプラスとなったが、金沢、能登地区はマイナスとなった。官公需、民需では、官公需は相変わらず厳しく、民需が活発に推移している。今年度の累計では全ての地区が前年に比べマイナスで推移しており、厳しい状況である。だが2月は先月に比べ少し明るさが出てきたように思われる。
	粘土かわら製造業	プロパンガスの価格が昨年10月から本年2月にかけて約30%以上の値上げとなった。今後も値上げが続く見通しである。プロパンガスの他にも梱包材や原土も値上がりし、大変なコスト高となっており、今後はさらに商品の値上げをしなければならなくなる。
鉄鋼・金属	非鉄金属・同合金圧延業	特に変化は見られない。
	鉄素形材製造業	業界は比較的稳定した状況である。生産量も月々の変動はあるものの、前年同期を上回る状況が続いている。これからもこのような状況が続けばと願うものである。
	鉄素形材製造業	特に変化は見られないが、概ね順調に推移しているものと思われる。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年2月分)

一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	引き続き好景気が継続している。但し、業種によってバラツキがあるものの総じて好景気が継続する見込みである。機械関係の流通業界も一部でバブル景気を超えているところもあり、今後の動向が逆に危惧される面も出始めているのが現状との見方をする専門筋も出て来ている。今後、人材面で不安感があり、技術伝承が問題とされている。今一度、ハイテクよりローテク技術の伝承を業界で見直す事が必要である。
	繊維機械製造業	繊維機械向けの部品加工は12～2月の間で約30%落ち込んでいたが、3月からは回復する見通しが立った。工作用機器向けの部品加工は好調である。組合員は建設機械、工作機械、産業機械向けの仕事を確保しているようである。
	プレス、工作機械	機械金属業界全体は大きな変化も無く依然として好調であります。ただ組合員からの話で、最近では単価の引上げどころか引下げの要求が多くなってきているとの事です。さらに納期も短縮を迫られているとの事です。
	機械金属、機械器具の製造	建設機械や工作機械は相変わらず高水準の生産を続けている。繊維機械も一時の停滞から上昇傾向が見られ、全体的に売上増となっている。設備や人の手当ても何とか一段落した模様で、落ち着いた操業を継続しており、この状態が最も安定した姿である。調達部材の価格上昇が懸念されるが、長い間据え置かれていた受注価格のアップが果たされれば、収益状況も良い状態を維持できるであろう。
その他の製造業	漆器製造業	2月は組合事業による消費地展示会が都内3カ所で開催された。いずれもエンドユーザー対象の展示即売会であるが、昨年対比での入場者数や売上高は共に減少した。売れ筋の商品は箸やスプーン等の小物や各社企画によるオリジナル商品が多く、従来のプロパー商品は振るわなかった。同様に産地内でもオリジナル商品を多く有する企業とそうでない企業との格差が顕著になりつつある。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	生糸等は数年振りの高値で推移しているものの、販売価格に転嫁できず、それがかえって売上高の減少を招いている。
	農畜産物・水産物卸売業	水産物の売上は下がる一方である。いつまでこの状態が続くのか全くわからない。
	一般機械器具卸売業	2月度も前年割れであった。住宅関連もほとんど動きが無く苦戦を強いられている。官公庁の年度末工事も極めて少なく、見込みが立たない状態である。世間では景気が回復していると言われていたが、建設業がらみの電気工事業は軒並み大苦戦の状態である。中小企業には冷たい国政と言わざるを得ない。
小売業	燃料小売業	2ヶ月連続で仕入高にもかかわらず末端価格の転嫁は不十分である。3月も仕入高がアップする事により過去の未転嫁分を含め値上げは必至である。石川県はセルフ式のガソリンスタンドの比率が全国第3位の県であり、その影響から価格競争は激化している。
	機械器具小売業	2月度は、液晶・PDPテレビ・DVDプレーヤー等のデジタル機器が全般的に不調で、冷蔵庫等の白物家電品の動きも悪く、地域店ルートでの需要は90%と見込まれる。液晶・PDPテレビの新製品発売と、7月から始まる地上デジタル放送開始による需要に期待したい。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	2月は冬物バーゲンに徹底したが中旬までしか売上が伸びなかった。婦人・服飾小物が前年並で肌着や寝具、子供服は前年対比減であった(総体的には98.5%)。本来なら中旬以降は春物の動きがあるのだが、寒気が緩まない影響から低調であった。
	鮮魚小売業	2月前半は入荷の少ない日が少なかった。全般的にやや強含みの値段で推移している。組合員の方から売行きが芳しくないとの声が日に日に増えている。消費者の魚離れを止めるような周知や方策の考慮が必要である。
	他に分類されない その他の小売業	兼六園への入場者数は大変少なくなっている。旅行業者等を通じ、兼六園への入場の働きかけを行うために入場のクーポン化を早急に進めて行きたい。
	百貨店・総合スーパー	2月の売上は予算比81.5%、前年比91.2%と今年度の中で一番悪かった。特に前半はほとんど前年割れで推移していた。2月前半のイベント企画の一つとしてパレンタイン関連の企画を行ったが集客には結び付かなかった。2月後半の毎年恒例のファッション関連のイベント企画は成功し、ファッション関連の売上は伸びた。部門別に見るとファッション・呉服は97.3%、服飾・貴金属で86%、生活雑貨で86.9%、食品95.4%、飲食93%、サービス関連101.2%であった。また、店舗別でも前年を超えた店舗は全体の約3割しか超えていない。
	米穀類小売業	毎年1～2月の売上は減少している。前年同期に比べると約3割も減少している。2月は日数的にも短い事から減少が目立つ。価格も前年同期に比べ約175円程下がっているが、さらに下がる可能性があり非常に厳しい状態である。いずれにせよ販売増に繋がる様に努力していかなければならない。

非

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年2月分)

製 造 業	商店街	近江町市場	景気が回復傾向にあると言われているものの、実感がわかないのが現状である。
		尾張町	商業者から見て大企業と呼ばれる会社が安定しているように見えながら、経営的になりふり構わない姿勢を示し出している。必ずしも日銀が話している上向き景気とは思えない事態が生じている中、昨日も一年前も・・・そして十年前からも商売を続けている店に対する信頼が静かな注目を集めているような気がする。
	サービス業	旅館、ホテル	積雪情報による風評被害で観光客の出足が悪く、大変厳しい状態となっている。
		旅館、ホテル	大雪の風評被害の影響により、予約数が減少している。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比13.3%増、前月比55.8%増。新規検査状況は、前年同月比6.5%増、前月比71.6%増で推移している。
		旅館、ホテル	雪によるキャンセルが大きかった。大雪の風評被害の影響により、新規の予約が獲得できず、前年同月比10%強の減少となった。新規旅館や既存旅館で増加傾向にあったが、全く厳しい現状となった。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比8.5%減となった。内訳は民間土木17.4%減、民間建築108.5%増となり、民間では79.7%の増となった。公共土木は21.6%減、公共建築88.5%減となり公共では49.9%の減となった。前年同月比に比べ民間建築は増加したが、公共建築は悪化した。
		鉄骨・鉄筋工事業	2月の稼働率は前年同月に比べ90%と落ち込んでいる。企業間で格差はあるものの全体的に人手不足の感じである。3月迄は忙しい状態が続くものと思われる。
		板金・金物工事業	年末からの豪雪により売上は減少傾向にある。2月20日以降から工事の発注が見られるようになってきた。木造注文住宅の減少から業界を取り巻く情勢は厳しくなるものと予想される。それに加え、住宅メーカーの発注単価の切り下げは組合員の転職や脱退につながるのではないかと思われる。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	原油価格が2月、3月と高騰しているが、運賃への転嫁が進まない状態にあり、非常に厳しい状態である。
		一般乗用旅客自動車運送業	最近タクシーの乗車率が35%を切る状況下となり、当面は生き残りをかけた競争が激化するものと思われる。その他に一部のバスに対する公的助成や施策が活発に行われている一方で、同じ公共交通機関と言われるタクシー業界には公的助成がなされていない。さらにNPO団体による自家用有償運送の許可に向け、認可方針が先行された福祉有償運送協議会が開催されたが、安全対策を含め今後不法行為がまかり通るような認可はだけは避けてもらいたい。
		一般貨物自動車運送業	前年同月並みの売上を計上しているが、燃料価格の上昇によるコストアップが利益を抑え、経常利益が限りなくゼロに近い状況にある。年末に軽油価格がやや落ち着いたように思えたが、今年に入り再び値上げされておりその対応に苦慮している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
小売業	燃料小売業	道路特定財源の一般財源化を反対する。